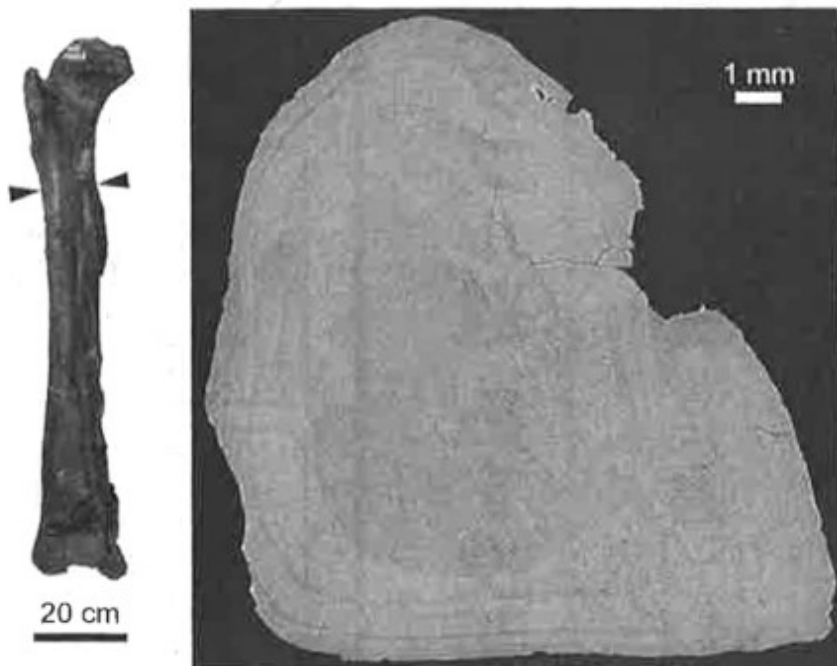


# 恐竜化石骨組織の撮影成功

フクイラプトルの大腿骨（左）の矢印部分を「スプリング8」の高エネルギーエックス線CTスキャンで撮影した画像（福井県立大恐竜学研究所提供）



福井県立大恐竜学研究所は7日、兵庫県の大型放射光施設「スプリング8」の高エネルギーエックス線CTスキャンを利用し、恐竜化石の骨組織の撮影に成功したと発表した。化石を切断せず高精度に観察できるのが特徴で、骨組織データから死亡時の年齢や成長速度などが分かるという。

福井県で発掘された獣脚類フクイラプトルの大腿骨をスキャンしたところ、化石の薄片を顕微鏡で観察する従来の手法に匹敵する結果が得られた。今井拓哉助教は「骨のあらゆる部分を観察すれば年齢判定の正確性が高まる。群れの年齢構成や生態を明らかにしたい」と意気込んだ。

スプリング8では、円形粒子加速器で電子を光とほぼ同じ速度まで加速し、磁石で軌道を曲げた時に発生する電磁波のうちエックス線を使用。工業用や医療用のCTスキャンと比べて精度が高い。従来では化石を切り出す必要があり、希少な標本では難しかった。

福井県立大 切断せず高精度に観察

産経新聞 2023年4月8日付け記事（共同通信配信）

HP掲載 2023/12/11

無断転載不可